

を問う



「米子市役所に設置してある耳マーク」



遠藤 俊寛

耳マークの設置

総合案内所に検討

遠藤 耳が聞こえない、聞こえにくいということ

は、日常生活において大変な苦勞がある。しかし、そのことが外見ではわかりにくく、周りの人から誤解を受けたり危険な目にあうことがある。

耳が不自由ですということを示すために考えられたのが、耳マークである。

このマークの普及の趣

旨は公共の窓口等を利用しやすいように不便の解消をしたり、聴覚障害者の実態を社会一般に認知してもらい、理解を求めていくことなどされている。伯耆町においても、耳マーク表示板を各課のカウンターや公共施設の

カウンターに設置できないか。

町長 耳マークについては、今後総合案内等に設置するように検討してみたい。

住民基本台帳カード

住民基本台帳カードを活用して、証明書自動交付機による住民票の写し等の各種証明書を交付するサービスや、災害時に避難先で避難者情報などをカードから登録し避難状況を迅速に把握できるシステムの導入はできないか。

町長 住民基本台帳カードを活用したサービスの導入検討にあたっては、需要量や費用対効果を考慮して、慎重に行う必要がある。

食育の取り組みは

遠藤 国の「食育推進基本計画」の数値目標の中に、朝食を抜く小学生をゼロに、学校給食への地元食材の使用割合を食材数で三十%以上にするとあるが、伯耆町の割合と取り組みを伺う。

十五%、地元産が十一%となっている。向上させる取り組みについては、産業振興課が中心となって生産者団体の組織づくりを行っているところである。

遠藤 来年度から栄養教諭が配置になる。食育は、食料自給率の向上や医療費の抑制につながる。そして何よりも食の大切さを学ぶことは、命の尊さを知る事になる。本町の食育運動の成果に期待する。

地場産食材の使用割合は、主な使用食材四十四品目についての使用重量の割合では、県内産が四